

2013 年度 甲南大学法科大学院入学試験問題

専門論文試験 刑法・刑事訴訟法

(120分)

受験についての注意

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはならない。
2. 問題は2ページまでである。印刷不鮮明、汚損等があれば申し出ること。
3. 解答用紙は刑法と刑事訴訟法各1枚である。解答用紙には裏面もあるので注意すること。
4. 解答は、該当する科目の解答用紙を使用すること。解答用紙を誤った場合、その答案は無効となる。
5. 答案は、横書きとする。
6. 答案は、実線内の番号に従って書き進めること。
7. 答案は、黒ボールペンまたは黒インクの万年筆で記入すること。これら以外で記入された答案は、無効となる。
8. 答案を訂正するときは、訂正部分が数行にわたる場合は斜線で、1行の場合には横線で消して、その次に書き直すこと。
9. 下書きには、問題冊子の余白を適宜利用すること。
10. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

専門論文試験 刑法

〔問題〕

以下の事例における、甲及び乙の刑法上の罪責について論じなさい。

甲(男性・35歳)は、大阪の繁華街でスナックを経営していたが、不景気で店の売り上げが落ち、金に困っていたところ、某夜、貴金属リサイクルを業とするA社の従業員Bが、酒に酔った勢いで、A社の倉庫には相当数の貴金属が保管されていること、倉庫の夜間の警備は数時間おきに宿直員による見回りがなされているだけであまり嚴重ではないことなどを話しているのを聞きつけたことから、A社の倉庫に忍びこんで、貴金属を盗み出すことを思いついた。そこで、この計画を、失職中の友人乙(男性・34歳)に打ち明けて協力を求めたところ、生活費に窮していた乙は、計画に加わることを了承し、早速、両者の間で具体的な犯行計画が立てられた。それによれば、甲がA社倉庫付近の下見をするほか、犯行当日は、甲が倉庫の外で見張りをするので、乙がA社倉庫に侵入して貴金属を盗ってくる、というものであった。また、倉庫への侵入の際に使うパール(全長33センチメートル、重さ約400グラム)などの道具は、甲が準備するほか、盗んだ貴金属を売って得た金は、甲と乙とで折半するという約束がなされた。

犯行当夜、甲と乙は、A社の倉庫から100メートルほど離れた空き地に各々車を停めた後、倉庫まで歩いて行き、倉庫の塀を飛び越えて敷地内に忍び込んだ。そして、乙は、倉庫の建物内に侵入するため、甲の持ってきたパールで入り口ドアの鍵を壊そうと試み、甲は、事務所の方から人が来ないか見張りをしていたところ、事務所のある方角から人が騒いでいるような声が聞こえた。そこで、甲は、「事務所の方が騒がしい。誰か来るかもしれない。今日はもう止めておこう。」と乙に告げると、塀の方に向かって走り去った。乙は、一旦鍵を壊す手を停めたものの、甲が神経質であることを知っており、また、何としても貴金属を手に入れたと考えていたことから、「大丈夫だ、俺1人でもやれるだろう」と思い直し、再び作業を開始して、間もなく倉庫の鍵を壊した。ところが、鍵を外し、乙が倉庫の扉を開いて中に足を踏み入れた途端、建物に設置されていた警報装置が事務所で鳴り響き、これ聞いた宿直員のC(男性・50歳)が倉庫の方に駆け付けてきた。Cは、乙の姿を見ると「どろぼう。」と叫んで携帯電話で110番通報をしようとしたが、これを見た乙は、とっさにCを倒すしかないと考え、手にしていたパールでCの頭部を数回殴打したところ、Cは倒れて身動きしなくなった。そこで、乙は、急いで倉庫内にあった貴金属のうち数点をポケットに入れると、即座にその場から立ち去った。なお、Cは、その後、A社の従業員に発見され、ただちに付近の病院へ救急車で搬送されたものの、約6時間後に、頭蓋骨骨折に伴うクモ膜下出血によって死亡した。

専門論文試験 刑事訴訟法

次の項目、用語ないし原理などについて、簡潔に説明せよ（なお、判例を前提にする）。

- (1) 親告罪とは何か、例を挙げて説明せよ。
- (2) 起訴前に被疑者が勾留される日数について説明せよ。
- (3) 被疑者が拒む場合、捜査機関が採血する手続について説明せよ。
- (4) 法 319 条 2 項の意味について説明せよ。
- (5) 「厳格な証明」とはなにか。